

弋

弋はで、土地の境界線をはっきりさせるためにたてた“木の枝”の象形です。“目じるし”“標識”(しるし)という意味を持った部首です。音はヨク。

杙は、“目じるしの木”という意味の字で、“くい”のことです。棒杙。音はヨク弋。

代は、“かわりだというしるしを持った人”という意味で、弋と人との会意字です。代理人は、代理人であることを証拠立てるしるしを持たなければ、信用できません。しるしは、代理人にとって重要なものですから、弋と人とで“かわり”の意味を表わしました。音は“かわる”意味の替タイです。更代(更待)。「代表」は大勢の人の代りという意味。「代金」は、品物の代りという意味。「世代」は子が親に代るという意味です。「現代」「古代」「時代」の代は世の意味です。

貸は、“次の世代へおくる財貨(貝)”という意味の会意形声字で、「遺産」が本義の字です。つまり“ただでゆずるお金”ですから“一時的にただでゆずる”という意味に使われるようになりました。今は、専ら“かす”という意味に使われています。**貸借**(貸し借り)、**賃貸**。音はチン。

タイ代です。

黛は、“まゆ毛をそって、代りにえがく黒いまゆずみ”のことです。黒は「墨」(すみ)の意味です。墨は、粘土をまぜて固めますので、黒と土の会意字です。

袋は、“着物(衣)の代りに、体をつつむ布”というのが本義の字です。昔は、今のように裁縫道具が発達していませんでしたので、普段着などは、布をただ体に巻きつけるだけでした。この布が、“衣の代用品”という意味で、「袋」と呼ばれたのです。転じて、“物を包む布”さらに“物を包む紙”まで、袋と言うようになりました。「手袋」「足袋」(たび)などは、袋の本義に近い用法なのです。

式は、弋と工との会意字です。工は、Iで長さの単位を表わした指事字で、また、定規の象形字とも見られます。「工作」の意味の部首です。式は“工作をする時の目じるし”という意味で、“ひな型”“手本”という意味を表わしたものです。「方式」「格式」は“手本”の意味を持つことばです。今では、一定の型によって行なわれるものすべてに使われています。入学式、礼式、公式、形式。音はシキです。

試は、“式に従って言ってみる”という意味の字です。“ためしてみる”“こころみる”ということです。試験。音はシキ式が短く発音されてシです。